

スラムの子どもたちの識字教室

中間報告

(2004年10月から2005年2月)



プロジェクト実行者

ボンベイ・レプロシー・プロジェクト

協力

「モンスーンと日光の教室」

後援

「光の音符」と「岡山の国立ハンセン病療養所」

中間報告

はじめに

非営利団体であるボンベイ・レプロシー・プロジェクト（以下、BLP）は、1976年以來、ボンベイ市内及び隣接するターネ（Thane）及びレイガド（Raigad）地区（インド・マハラシュートラ州）において、困窮したハンセン病患者及び身障者の福祉のために働いている。2004年9月24日、日本の京都にある「光の音符」から西村及び花谷両氏がBLPを訪れた際に、光の音符は、ハンセン病及び障害を引き起こす他の疾患に感染した子どもたち、そしてストリートチルドレンを含む子どもたちのための教育プログラムを支援したいとの希望を述べた。BLPは識字プログラムを支援するため、特別プロジェクトを提案した。このプロジェクトでは、約40人から50人の子どもたちが、ボンベイの公立アクウォース（Acworth）ハンセン病病院の敷地内にある「モンスーンと日光の教室」で、公教育及び非公式教育の恩恵を受ける。

（訳注：非公式教育は、公教育／学校教育以外の形態を指す）

BLP、子どもたちの教育支援活動に着手

BLPは、2004年10月1日、ハンセン病の子どもたち及びストリートチルドレンを統合させた形で、「スラムの子どもたちの識字プログラム（SCLC）」を開始した。開校式の主賓として、公立アクウォースハンセン病病院（ALH）のチマルギー院長（Dr.Chimalgi）を招いた。このプログラムは、シスター・セラフィン（Sr.Seraphine）がアクウォース病院で行なってきた「モンスーンと日光の教室」と協同で組織化され、日本のNGO団体「光の音符」の支援によって、ボンベイのスラム地域に住むハンセン病患者の子どもたちに教育を届けることを使命とする。以下は、2004年10月1日から2005年2月28日までに行われた活動である。

教育プログラム

40人の子どもたち全員が、このセンター（教室）で毎日午前10時から午後1時まで、授業を受けている。子どもたちには、リズム、詩、文字、数字を、絵カードを用いて教える。また絵や工作、ゲームなども教えている。6歳以上の子どもたちは、公立学校の1年から5年に入学し、マハラシュートラ政府が推奨する課程によって学校教育を受けている。教室が終わるとすべての



の子どもたちに、バランスの取れた栄養が含まれた昼食が提供される。

人権デーの視察

B L Pは、小規模だが重要な行事である2004年12月10日の人権デーに、この教室の視察を行なった。招待を受けたタミル・ナドゥ州チェンガルパツツ(Chengalpattu)にあるインド国立中央ハンセン病教育研究所のオーメン所長(Dr.P.K.Oomen)は、B L Pの様々な活動が、ハンセン病患者や身体障害者だけでなく、貧困線(訳注:最低限度の生活を維持するのに必要な所得水準)以下



の生活をしている栄養不良の貧しい子どもたちの人権を支えている様子を視察した。オーメン所長はまた、スラムの子どもたちとストリートチルドレンそしてハンセン病患者の子どもたちが受益者として一緒に、無料提供される食事や医療支援、そして教育を受けている識字教室を訪問した。アクウォース病院のチマルギー院長は、B L Pが始めたこの活動は、ハンセン病患者だけでなく恵まれない子どもたちの人権に対する戦いでもあると賞賛した。

教材の提供

おもちゃや図表、掲示板などの教材が「モンスーンと日光の教室」に贈られた。またレベルに応じた初等教育の本が、教室に寄付された。上級生には、色塗り帳やクレヨン、色鉛筆などの絵の道具が贈られた。公立学校に出席している全生徒に、学校の制服一式が贈られた。日本から送られた寄贈品や服、また地域からの寄付品も、子どもたちに配られた。



スラムの子どもたちの健康診断

B L Pの医療スタッフであるラオ医師(Dr.Rao)が、ボンベイ市ワダラ(Wadala)にあるアクウォース病院の識字教室に出席している子どもたち全員に健康診断を行った。子どもたち全員を診察し、必要に応じてビタミン剤、造血剤、抗生物質、咳止めシロップなどの薬を処方した。ほとんどの子どもたちに呼吸器感染症がみられ、30人の子どもた



中には寄生虫駆除が必要だった。再診及び指導のため、3人の子どもに一般の病院を紹介した。子どもたち全員に、自分たちでできる衛生指導を行った。これら子どもたちの個人医療データは管理され、定期的に更新される。

健康診断の結果

結果	子どもの数
呼吸器感染症	18
皮膚疾患	4
耳鼻咽喉系統の疾患	1
胃腸疾患	2
眼疾患	2
C V S	1
寄生虫感染	30
ビタミン不足	23
小さな傷	2

教室は、子どもたちに基礎教育を施すと同時に、絵画や工作などの技能を育て、幼い心に創造性を促進することを目的として継続される。